

山梨大

南ア市

# 地下水研究で連携

## フロン濃度で浸透時期推定

南アルプス市は、山梨大の大学院国際流域環境研究センターと共同で、市内の地下水調査研究に取り組んでいる。現在、地表が放射性物質などに汚染された場合に、地下水の安全がどの程度確保されるかなどについて研究を進めている。

# 峡中 ワイド

### 安全性把握に生かす

市は豊富といわれる市内の地下水の保全に役立てるために実態把握を進めようと、2009年9月に同大との協定を締結した。これまでに市内の主要な水道水源で、水質特性の調査などを行ってきた。本年度は市内にある井戸水



を採取し、降雨によって水が

地下水の調査を行う中村高志特任助教(右)ら。南アルプス市内地下に浸透した時期を把握するための調査をしている。「地下水年代推定法」と呼ばれる方法を取り入れ、地下水のフロンガス濃度を測ること

で水が地中であつた期間を特定して、「全国的にも先進的な試み」(同センター)という。調査を担当する中村高志特任助教は「将来の水源の状況を予測する重要な手段になる可能性がある」と話す。同センターによると、研究が進めば、突発的な地表汚染などがあつた際に地下水の安全が保証できる期間や、正常な状態まで回復する期間を把

握することが可能になるといふ。市産業立地推進室は「市の貴重な資源となつている地下水の保全や有効活用を目指して、調査を進めていきたい」としている。